

仙人通信 118 小金沢山 (2014m)・牛奥雁腹摺山 (1995m)

小金沢山・牛奥雁腹摺山は、大菩薩峠の南に位置し、小金沢連嶺の主峯でどちらも富嶽 12 景、そして山梨 100 名山でもある。裂石 上日川峠 小屋平まで車で入り、石丸峠 狼平 小金沢山 牛奥雁腹摺山と進み、ピストンをすることにした。

登山口である小屋平(1620m)から石丸峠までは、大菩薩峠に登った際に利用したコースでもある。小屋平は甲斐大和から塩山への循環バスがあり、そのバス停でもあるが、このコースは冬季閉鎖と成る事から、心配して来たが、まだバスも運行されていた。

この一帯は唐松林で覆われ、今や黄土色の葉が青空に映える。ほぼ真直ぐに伸びた登山道を 30 分程進むと一段上の林道に出る。

林道を 150m程進んで、コースに戻る。唐松の細かな針状の葉が根元一帯にある熊笹の葉の上に静かに、粉雪が降るかの如くサラサラと落ちるのが聞こえる。

そう、登山者は小生のみで、小生のカウベルの音と靴音以外無い、静寂の世界である。

唐松林には、ブナや桜が混じりだし、25 分程で草原に出る。目の前には狼平・小金沢山が、更に待望の富士山も顔を出す。10 分の緩やかなコースで石丸峠である。

ここからは、熊沢山や大菩薩を背中にして緩やかな笹原の登りである。最初のピークを過ぎて下りに入ると目の前に大菩薩湖 上日川ダム が唐松の茶色の中に濃青色で佇み、先には、雪化粧した甲斐駒ヶ岳・鳳凰三山・北岳から塩見まで臨める。小さな岩場の上に立ち暫しの休憩をとる。

赤い実だけになったナナカマドも場を盛り立ててくれる。ここから 10 分ほど下ると狼平である。

笹原の中に 1 本のシラビソに寄り添うように道標がある。ここから小金沢山までは、尾根の北側を登るシラビソ中心のコースである。ダケカンバ・サクラ・ブナ等の落葉樹も混じるも視界が利かない。

寒波が押し寄せた事もあり、手袋・ヤッケを着込んでの登りである。山頂かと思わせるピークが続く、倒木もかなりあり、以外とキツイ忍耐の登りとなる。石丸峠から 90 分漸く山頂(2014m)に辿り着く。

富士山が手前に三つ峠や御坂の山に守られて現れる。目の前には連嶺の黒岳や 500 円札で有名な雁腹摺山が、遠くには道志や丹沢の峯、そして左手前には春に登った奥多摩の鷹の巣山等の奥多摩の峯である。

小休憩後に尾根伝いに日の当たるコースを進む。ブナ・サクラ・ツツジ等の落葉樹帯となり、

笹原からは八ヶ岳や茅ヶ岳も望める。35 分で最終目的地の牛奥雁腹摺山である。

『富嶽 12 景の 2 番』の事はある。綺麗な富士だ。！！！！

奥多摩の御岳から御坂の節刀ヶ岳までは遮るものがない。最高！！！

梢の隙間から北岳も望める。この辺から先が大菩薩と異なる石英閃緑岩帯と成るようだ。

登れた事へ感激をし、胸に光景を畳みこみ、来たコースに戻る事にした。林道を横切り車に近づくと無事を喜んでくれているようで、牡鹿の嘶きだ。帰路は日川渓谷の素晴らしい紅葉が眺められたちょうど 6 時間(24000 歩)の山旅でした。(h 2 5 . 1 1 . 8 )

大菩薩湖と南アルプス



小金沢山山頂



牛奥雁腹摺山からの富士山

